



平成22年度
倉敷市市民企画提案事業について

答 申

平成22年6月28日

倉敷市市民企画提案事業審議会

平成22年度

倉敷市市民企画提案事業の審査について（答申）

目 次

	頁
市民企画提案事業審査結果	1
審議会出席委員	9
参考資料	
(1) 諮問書	10
(2) 提案団体	11

倉敷市市民企画提案事業審議会は、倉敷市が募集した平成22年度市民企画提案事業に応募のあった、創業期活動部門4件、公益的自主事業部門11件、協働事業部門6件、合計21件について、審査を行う機会を与えられました。

倉敷市市民企画提案事業は、平成17年度に制度化され、現在までに多くの成果を上げているところですが、申込団体をはじめ、受益者である市民のニーズを考慮して、より利用しやすいよう制度改正がなされたところです。主な改正点は、従来からの「協働事業部門」と併せて、市民公益活動団体の裾野拡大を図り、自主自立した活動運営を可能とするために、「創業期活動部門（通称：めばえコース）」、「公益的自主事業部門（通称：はばたきコース）」を新設し、3部門制となった点です。部門を分けることで、団体の事業計画に合わせた部門が選択できるようになったと思われ、さまざまな分野で、目的、課題の解決方法に応じた多種多様な事業の申し込みがありました。残念ながらめばえコースの応募は4件と少なく、設立間もない団体等への制度の周知について一層の工夫を求めるものがあります。今回の改正が、市民公益活動の活性化の一助となったと考え、制度改正に係る諮問に応えた審議会として、大変うれしく感じました。

各事業を審査するに当たり、公益性、事業目的、費用対効果をはじめ、申込事業が地域の活性化や社会環境等の改善につながり、市民サービスの向上に寄与するかどうかなど多方向から捉え、事業計画書や予算書の内容を吟味するとともに、公開プレゼンテーションでの発表内容や質疑応答を踏まえ、慎重に審査しました。そして、審査結果及び講評については、次の「審査結果及び講評」に併記させていただきました。

最後になりましたが、倉敷市市民企画提案事業の事業目的に御理解いただき、さらには審査にかかる質問等に関しても丁寧に対応して下さった皆様に心からお礼を申し上げます。

平成22年6月28日

倉敷市市民企画提案事業審議会
会長 鈴井 江三子

【選考過程】

はばたきコース、協働事業部門については、5月23日に開催された公開プレゼンテーションでの事業に関する説明、質疑応答を基に、事業の実現可能性や事業に対する団体の熱意を量りました。また、当初の事業計画、予算書では判断できない部分や、事業内容に精査の必要性が見られる箇所について、後日追加質問を行いました。6月14日に開催された審議会で、公開プレゼンテーション、質問に対する回答と追加資料、協働事業部門に関しては担当課の意見等を総合的に勘案した上で、審査基準に基づいて審査を行いました。

めばえコースについては公開プレゼンテーションを行わず、事業計画、予算書及び審議会からの追加質問に対する回答書を基に、審査基準に基づいて6月14日に開催された審議会で審査を行いました。

【選考基準】

公平性を確保するため、提案事業の関係者となる委員は該当する部門の審査を外れることとし、各委員ごとに採点を行うこととしました。提案事業ごとに各委員10.0点を持ち点とし、全委員の得点のうち最高点及び最低点を除いた得点の平均点を評価点としました。

所定の公開プレゼンテーションの傍聴を行った団体の提案事業については、10点加点することとし、採択基準は60点以上としました。

事業評価<評価項目及び配点(100点満点)>

市民企画提案事業審査基準

審査項目			項目			
審査のポイント			めばえ	はばたき	協働	
基準Ⅰ	公益性	A 不特定多数のものの利益の増進に寄与するなど公益性の高い事業である	○	○	○	
	中立性	B 市が補助することについて、疑義が生じる要素がない	○	○	○	
	協働性	C 市民団体と行政が協働すべき領域で、市民団体が取り組む方が効果があがる事業である	△	△	○	
	全項目「はい」か			○	○	○
基準Ⅱ	① 目的 (公益性・重要性・緊急性)	1 不特定多数のものの利益の増進に寄与するなど公益性の高い事業である	△	○	○	
		2 課題の緊急性や重要性が具体的に示されている	△	○	○	
		3 その目的や緊急性・重要性は、事実に基づき確認している	△	○	○	
		4 その課題になぜ取り組まなければいけないのかというニーズに共感できる	○	○	○	
		5 市民団体と行政が協働すべき領域に属する提案(課題)内容である	△	△	○	
	配点			25	30	20
	② 事業内容 (計画性)	6 市が補助することについて、疑義が生じる要素がない	○	○	○	
		7 目的に沿った事業計画がつけられている	○	○	○	
		8 実施にあたり、十分な準備期間・手段が取られている	△	○	○	
		9 実施時期は適当である	○	○	○	
		10 より多くの人が参加できるような工夫がある	△	○	○	
		11 提案団体の特性(ノウハウ)を活かした内容である	△	○	○	
12 地域住民の理解を得られ、市民満足度が高まる内容である	△	○	○			
配点			25	25	25	
③ 費用負担	13 収支計画は適切である	○	○	○		
	14 申請金額は適切である	○	○	○		
	15 自己資金の調達は担保されている	△	○	○		
	16 予算配分は適切である	○	○	○		
配点			25	10	10	
④ 人材配置	17 計画を遂行する技能・能力(人的資源)がある	△	○	○		
	18 ボランティアスタッフの力を生かす組織となっている	△	○	○		
配点			△	10	10	
⑤ 協働性	19 市民団体と行政が協働すべき領域で、市民団体が取り組む方が効果があがる事業である	△	△	○		
	20 提案団体と市の役割分担が明確かつ妥当なものである	△	△	○		
	21 市(行政)に求めている役割(協働内容)は具体的かつ適切である	△	△	○		
配点			△	△	25	
⑥ 独自性・将来性	22 先進的・先駆的な事業内容である	○	○	○		
	23 発展性・普及性がある事業内容である(めばえ:団体の発展性が感じられる提案である)	○	○	○		
配点			25	25	10	

【審査結果及び講評】

<創業期活動部門（めばえコース）>

応募のあった4件について、すべて採択基準を超えていると認めました。順位及び全体講評は下記のとおりです。

- 1位 託児付きスクラップブック講習
- 2位 暮らしき多文化共生まちづくり推進事業
- 3位 就労継続支援A型 よろこびの庭 利用者の職場環境改善
- 4位 こどもが行う理科工作を支援する

本部門は、活動開始から3年未満の団体を対象とした制度として新設した部門で、市民公益活動団体として今後の活動を期待させる事業が多く見受けられました。反面、事業内容にもう一工夫あればさらに良い事業となったと思われるものや、書面だけでは事業計画が分かりにくかったものもありました。

事業の実施に際しては、より多くの市民が参加し、満足度の高い内容となるような工夫をしていただくよう望みます。また、団体として持続可能な活動を行っていくためにも、準備等の時間を充分とること、適正な役割分担をするなどして、事業を実施することで団体の会員が疲弊することなく、満足感を感じることができるよう工夫を望みます。

<公益的自主事業部門（はばたきコース）>

応募のあった11件について、すべて採択基準を超えていると認めました。また、採択に際しては本答申書の上位事業から順に採択することが望ましいと考えます。

本部門は、公益的な自主事業を支援するために今年度から新設した部門で、保健福祉、環境保全、まちづくり、観光、青少年の健全育成など、さまざまな分野から、合計11事業の申し込みがありました。

各事業ともに、地域のニーズに応える事業や課題解決のための事業を提案していただいております。事業目的に共感できました。事業実施に際しても、団体の特性を活かした事業が実施されることを期待します。また、公開プレゼンテーションでは、申込団体の熱意を直接感じることができました。プレゼンテーションの上手な団体は、単に申込書を読み上げるだけでなく、事業の背景を説明することで、実施の必要性や効果がイメージしやすいプレゼンテーションとなっていました。一方、時間が足らず、団体の想いをすべてアピールできないなど、プレゼンテーションの構成に工夫が求められる団体もありました。

書類についても、明瞭かつ簡潔に、事業目的や内容、予算を記述している事業については評価が高く、事業計画や予算の詳細が分かりにくい事業や、提案書の中で矛盾が生じている事業については、事業目的には共感できるものの、低い評価となる傾向が見受けられました。最終的には、審議会委員からの質問に対する回答、補足説明を通じて再確認して評価を行いました。市民の皆様との共感を得るためにも、申込書やプレゼンテーションで明確な説明が出来るようにしていただくことを望みます。

以下に、事業ごとに審議会が評価した点や、工夫を求める点などについて記載します。

1位 公共施設に設置の車椅子の清掃

障害者ができる社会貢献の一環としての事業ということと、公益性の高さ、費用対効果の面から高く評価しました。ただ、認知度を上げる必要性は充分理解するものの、これについては、団体の公益活動を通じた普段の努力によるものであり、今後のNPO法人としての広報活動等で工夫していただく必要があると考えます。

2位 『X'masイルミネーション in 水島』開催

水島地区の地域活性化のために、地元の住民が自ら考え事業を実施することが重要であり、その熱意を高く評価しました。また、地元企業を巻き込んで事業を実施するとともに、さらに多くの市民が参加できる工夫を望みます。

3位 『環境最先端学区』実現事業

地域住民一丸となって環境問題に取り組む姿勢を高く評価しました。地域住民の連携が事業成功の鍵となるという意見がありました。また、事業で得られた成果を他の地域に広めるための工夫を期待します。

4位 倉敷川再生活動—生命あふれる清流に—

親子を対象にした環境教育、まちづくり、人づくりという観点から高く評価しました。昨年度の協働事業との違いを明確にすることが必要であると考えます。また、今後、団体としての新しい取り組みを行うことを期待します。

5位 『不登校児童、生徒及びその保護者を支える為の研修講座』開催事業

不登校は、今日の社会のかかえる象徴的な問題であり、生徒とその保護者を周囲がどのように支えるかが重要であることから、多くの人に認知してもらいたいという必要性を評価しました。受講者が保護者等に偏ることがなく、多くの一般の市民を巻き込んだ事業となるような工夫を望みます。

6位 ” 災害の怖さをみんなで知ろう”

(災害に関心を持ち、減災を考え、自助・共助の役割を学ぼう)

災害時の自助・共助の必要性を市民に広く周知するという点を評価しました。自主防災組織にも働き掛けるなど、積極的な事業展開を求めるとともに、多くの市民が参加できるよう、講座内容に応じた受講者数を募集する必要があると考えます。

7位 環境紙芝居『倉敷市のゴミはどこへ行く?』作成事業

環境問題を子どもたちに分かりやすく表現し、教育につなげるという点を評価しました。作成した紙芝居を使用して、今後どのような事業展開をしていくのかを明確にする必要があると考えます。

8位 ちびっ子カメラマン集合！一親子で楽しく撮ろう美観地区一

小学生を対象に、写真を通じて自分たちの街を知り、多くのことを学ぶ機会を提供することを評価しました。作成したDVDをうまく活用して、参加者以外の人々に事業の目的を広める工夫を望みます。

9位 すごい弁当力実践講座事業

弁当づくりを通じて、家族をはじめ身近な人の大切さに気付く機会を提供する点を評価しました。一方、対象者に対する講師の数など、事業の計画に工夫があれば更に良い事業になると考えます。

10位 『市民が主役！！まちづくり観光プロデュース講座』

市民が主役となって観光振興を行うという点を評価します。今年度の国民文化祭と併せて実施することでより効果が上がると考えますが、目的と事業のつながりを明確にすること、多くの団体と協働するなどして、倉敷らしさを活かせる工夫を望みます。

11位 馬入山を愛し地域の人たちと健康的な生き方を研究する

精神的、身体的に地元住民の健康維持に役立つ事業である点を評価しました。一方、調査研究内容を具体的にすること、より多くの人を巻き込む事業計画などの工夫が必要であると考えます。

<協働事業部門>

応募のあった6件について、すべて採択基準を超えていると認めました。また、採択に際しては上位事業から順に採択することが望ましいと考えます。

本部門は他の2部門と大きく異なり、自主事業に対する補助ではなく、協働という手法で実施する事業に対する補助で、保健福祉、観光、市民活動の推進などの分野から、合計6事業の申し込みがありました。

今回、申し込みのあった事業のうち、高く評価した事業は、申込書の事業目的、事業内容、予算書等が分かりやすく説明されていました。一方で、質疑応答などで確認するまで、事業計画と経費の関連性が分かりにくい事業がありました。書類審査のみで公開プレゼンテーションが行われない助成制度が多いことから、各団体の今後の課題として指摘します。

また、継続してほしい取り組みや、単発でも将来的に中長期的な展望があるものの評価が高く、行政からの意見書等で、行政側も必要としている事業であっても、事業計画にもう一工夫ほしいものは評価が低くなりました。

公開プレゼンテーションについても、具体的な数値データ等を示して現状の説明を行うなど、申込書に書かれていない部分をきちんと説明した事業は高評価となりました。一方、想いや事業の必要性については共感できるが、事業内容や予算などの説明が分かりにくい事業は評価が低くなりました。

採択される事業については、個別の答申内容に注意しながら事業を実施していただくことを希望するとともに、今後も担当課と調整し、多くの市民の共感が得られる事業となることを期待します。

以下に、事業ごとに審議会が評価した点や、工夫を求める点などについて記載します。

1位 しょうがい者と地域の和やかなふれあい事業

障がい者が地域で生活するための支援だけでなく、地域住民と触れ合うことで地域全体を豊かにするという視点を評価しました。団体として多くの事業を実施する中で、他の助成事業と、事業内容、経費等が混同しないように注意してください。

2位 『着物でぶらり！笑顔でパチリ！！ようこそ、倉敷へ』プロジェクト

「おもてなしの場」を提供し、観光客の思い出づくりを、市民自らがお手伝いするということを高く評価しました。事業実施に際しては、着物の販売や営利を目的とする事業ではないかとの誤解を受けない工夫をするよう望みます。今後の課題として、事業を継続していくためにも、受益者負担を視野に入れ、利用者アンケートなどにより、制度設計を検討することを望みます。

3位 倉敷NPOフォーラム開催事業

フォーラムを通じ、市民活動団体自らが市民活動のあり方、役割のヒントをつかみ、市内のNPOの活性化につなげる事業の目的を評価しました。行政単独ではなく市民活動団体が実施することの有効性や意義を、多くの市民に伝える工夫を望みます。

4位 親育ち子育て ハッピーサポート事業

高機能高汎性発達障がいを抱える子どもたちを先進的な手法でサポートし、事例や成果を関係者に広く還元しようとする点を評価しました。団体の関係者ばかりでなく、同じ悩みを持つ多くの保護者や学校関係者等にも講座等に参加してもらえる工夫を望みます。

5位 たんぽぽの花を咲かそう・パートⅡ

育メンをキーワードに、男性の育児参加・家事参画を促す点を評価しました。この事業に参加することで、母親だけで育児を行うのではなく、父親も育児や家事に積極的に参加するきっかけとなることを期待します。また、団体の特性を活かした事業の実施を望みます。

6位 健康マーチの普及啓発・健康づくり活動

健康に関する普及啓発という、今まで市が中心に行っていた分野を、協働という手法で行うことで、より市民の目線に近い事業展開が期待できます。反面、今まで市が健康マーチの普及に取り組んでいたにも関わらず認知度が低いということからも、新しいアイデアを取り入れた事業展開を望みます。

<全体講評>

全部門を通じて、子どもから高齢者まで幅広い年代層の市民を対象とする事業や、団体の力に応じた持続可能な事業、地道に何年もかけて実施することで効果が上がる事業、目的に対して計画がブレていない事業を高く評価しました。

また、今回総合評価としては評価が低かった事業についても、高く評価した委員がいる事業もありました。今回採択されない事業についても事業計画を見直し、申込書とプレゼンテーションで、事業計画と団体の想いが伝わるよう工夫し、更に公益性の高い事業として、再チャレンジしていただきたいと思います。

最後に、公開プレゼンテーションでは、他団体の事業計画を傍聴することで、市民企画提案事業だけでなく、今後の団体としての活動を行ううえで、他団体と協働した事業が可能であるとの気付き、自団体の特性や不足している部分などが見える機会があったと思います。倉敷市における市民活動がますます活発になるためにも、さらに多くの団体が参加し、互いに切磋琢磨していくことを強く望みます。

倉敷市市民企画提案事業審議会出席委員

	氏 名 (敬称略)	所 属 等
	あだち れいと 安達 励人	倉敷市立短期大学 教授
副会長	かわべ せいいちろう 河邊 誠一郎	倉敷の自然をまもる会 会長
	きだ やすまさ 木田 泰正	倉敷青年会議所 副理事長
	こやま えつし 小山 悦司	倉敷芸術科学大学 教授
会長	すずい えみこ 鈴井 江三子	川崎医療福祉大学 教授
	つちや ひとみ 土屋 瞳	男女共同参画フォーラム2000まび 代表
	まつお しげき 松尾 茂樹	岡山県備中県民局協働推進室 室長
	もりもと きよし 森本 潔	児島商工会議所 事務局長
	もりや みゆき 守屋 美雪	ふるさとももたろう塾 卒塾生

50音順